



獅子舞

獅子舞散見於日本各地，為獅子配合笛韻和鼓聲舞蹈的祭典。

相傳熊本市中央區新町の獅子舞有400年歷史，為藤崎八幡宮例大祭的亮點之一。據說讓獅子舞咬一下頭便能除災解厄，可以觀看到年幼兒童因害怕而哭泣，令人會心一笑的景象。

獅子舞

獅子舞とは笛と太鼓の音色に合わせ獅子が舞う日本各地にあるお祭りです。熊本市中央区にある新町の獅子舞は400年の歴史を持つと伝わり、藤崎八幡宮例大祭の見所の一つです。獅子舞に頭をかまれると厄払いになると言われており、小さな子供は怖がって泣いてしまうという微笑ましい光景も見るすることができます。

MAP/P26 ⑥



能樂

能樂是日本具代表性的舞臺藝術之一，獲指定為國家重要非物質文化遺產，並於2008年獲註冊為聯合國教科文組織非物質文化遺產。在熊本自古即受喜愛，如今仍然產出許多表演者。

能樂

能樂とは日本の代表的な舞台芸術の一つで、国の重要無形文化財に指定され、2008年にはユネスコの無形文化遺産に登録されました。熊本でも古くから盛んで、現在も多くの役者を生み出しています。

流鏑馬 (Yabusame)

流鏑馬意指坐在奔馳的馬背上射箭的傳統技術和儀式。

其英勇身影和駿馬奔馳的迫力令觀眾興奮尖叫。您可在山水神社的春秋大祭中親身觀賞。

やぶさめ

流鏑馬

流鏑馬とは走る馬の上からの矢を射る伝統的な技術や儀式のことです。その勇ましい姿と馬が走り抜ける迫力に観客たちは興奮し歓声が上がります。出水神社の春と秋に催される大祭でみるすることができます。

MAP/P26 ①



神樂

神樂意謂在日本神道教中獻給神明的歌舞，是古代日本傳承至今的文化。

熊本全縣各地區存在著200種神樂。

神樂

神樂とは日本神道において神様に奉納する歌や踊りのことで日本に古来から伝わる文化です。熊本では県全域の様々な地域で200もの神樂が存在しています。

中江岩戸神樂 地點：中江神樂殿
定期公演：4~11月 ※10月除外 毎月第1星期日

中江岩戸神樂 場所：中江神樂殿
定期公演：4~11月 ※10月除く 毎月第1日曜日



MAP/P25 ⑥



熊本的工藝

熊本縣擁有豐富的自然和素材，故誕生出各種傳統工藝，如金屬藝品、木製藝品、陶瓷器、染色品、紙藝品、竹藝品、鄉土玩具和其他日本樂器等。

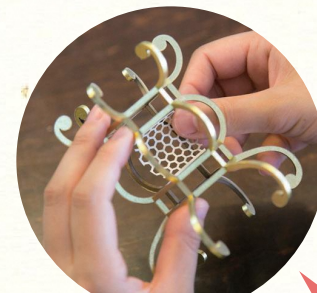
親海生活、山間生活、祭典生活，工匠的技藝與智慧與上述這些常民生活緊密相連，淬鍊昇華，自古而今誕生了各種工藝品。

如肥後象嵌、山鹿燈籠、小代燒、天草陶瓷器4種工藝品，獲國家指定為「傳統工藝品」，引起國內外廣泛關注。

請您務必欣賞蘊含熊本榮耀和心念的工藝品。

熊本の工藝

自然と素材に恵まれた熊本県では、金工品、木工品、陶磁器、染色品、紙工品、竹工品、郷土玩具、その他楽器など、さまざまな伝統工芸が各地で生まれました。海のある暮らし、山の中での暮らし、祭りのある暮らし、人々のあらゆる暮らしに密接に結びついて、職人の技や知恵は洗練され、数々の工芸品が現代まで育まれてきました。肥後象嵌をはじめとする山鹿灯籠、小代焼、天草陶磁器の4種の工芸品は、国の指定の『伝統的工芸品』に認定され、国内外から多くの注目を集めています。熊本の誇りと想いが宿った工芸品を是非ご覧ください。



可以參觀及體驗製作山鹿燈籠！
山鹿燈籠民藝館 *需要預約

山鹿燈籠の見学と制作体験もできます！
山鹿燈籠民藝館 ※要予約



山鹿燈籠

山鹿燈籠意指不使用木材和釘子，僅以和紙和漿糊製作而成的燈籠。

每個部位皆呈中空狀，其輕盈程度令人驚豔。

在每年8月舉辦的「山鹿燈籠祭」中，您可以看到頭戴金色燈籠的女性齊跳「千人舞」之夢幻景象。



MAP/P25 7



肥後象嵌

肥後象嵌とは熊本に伝わる金工品のことで、その歴史は古く17世紀より作られており、銃身や刀の鐔の装飾を施したことが始まりと言われています。その造形之美は武士の文化を色濃く反映しており深い黒地に派手さを抑えた金銀の装飾が施され、品格と重厚感を感じさせるものとなっています。



肥後象嵌配件製作体験！
由專業工匠直接指導。
肥後象嵌「光助」
* 需要預約

肥後象嵌 (MAP/P26 ⑧)

肥後象嵌意指熊本傳世的金屬藝品，據說其歷史遠可追溯至17世紀，最早是始於為槍身和刀具護手施以裝飾。

其造形之美深刻地體現出武士文化，在深黑質地上施以低調的金銀裝飾，令人感受到品格和穩重感。



肥後象嵌アクセサリ作り体験！
職人さんが直接指導してくれます。
肥後象嵌「光助」*要予約



雉子馬、花手匣

據說始於距今約800年前，緣自平家的人們因敗戰逃至人吉，想念在京都的生活而開始製作。

描繪鮮豔山茶花的花手匣可當作給女子的贈品，而在木製胴體上帶有車輪的雉子馬則可作為祈願男子健康成長的吉祥物，兩種藝品作為人吉的傳統工藝，至今仍然深受喜愛。



きじ馬・花手箱

およそ800年以上前、戦に破れ人吉に逃れてきた平家の人々が都での暮らしを懐かしみ作ったのが始まりと言われています。鮮やかな椿を描いた花手箱は女の子への贈り物に、木製の胴体に車輪がついたきじ馬は男の子の健やかな成長を願う縁起物として今もなお人吉の伝統工芸品として親しまれています。

(MAP/P26 ⑧)



小代焼

小代焼意指在熊本北部燒製的陶器，質樸而強大的風格是其特徵。

其藝術性高，無論是修飾菜肴和花卉，或是作為日常使用的容器，皆能由於襯托出素材的優點而廣為活用。

しょうだいやき
小代焼

小代焼とは、熊本の北部で焼かれている陶器で、素朴で力強い作風が特徴です。高い芸術性を持ち、料理や花を飾っても、素材の良さを引き立てるため、普段使いの器としても親しまれています。

(MAP/P26 ⑧)



天草陶磁器

在出產優質陶石和陶土的天草，陶磁器自古以來便蓬勃發展。

白透美麗的瓷器，各具風格的陶器。其多樣性和因工坊而異、變化多端的風格，令欣賞的人們大飽眼福。

(MAP/P26 ⑧)



天草陶磁器

良質な陶石や陶土が産出される天草では、古くから陶磁器が盛んに焼かれてきました。透き通る様に白く美しい磁器や、その一つ一つに個性的な風合いが浮かび上がる陶器。その多様性と窯元ごとに異なるバラエティ豊かな作風は見る人を楽しませてくれます。

可以體驗到使用「手捏」和「陶輪」的陶藝製作。
天草文化交流館 *需要預約

「手ひねり」や「ろくろ」を使った陶芸体験ができます。
天草文化交流館 *要予約





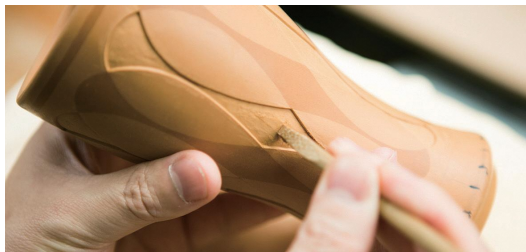
HP



FB

熊本手藝研究所

熱愛時曆的豐饒生活



貼近感受 熊本四季

為努力使世人瞭解熊本手藝品（傳統工藝、傳統藝術、飲食等）的美好，並將之融入日常生活，豐富常民生活，我們在官方網頁和臉書上發布相關訊息。

若您想貼身體會熊本四季的傳統文化，請務必來逛逛。

もっと身近に感じる 四季折々の熊本

熊本の手仕事（伝統工芸、伝統芸能、食等）の素晴らしさを知り、日々の暮らしに取り入れることで、人々の生活をより豊かにする取り組みとして、ホームページやフェイスブックで情報を発信しています。熊本の四季折々の伝統文化を身近に感じたい方は、ぜひチェックしてみてください。

『くまもと手しごと研究所』では一緒に熊本の魅力を発掘・発信していただける**キュレーターを募集**しています！
お問い合わせ：熊本県文化企画・世界遺産推進課 TEL 096-333-2154

日本遺産とは文化庁が創設した認定制度で、熊本県内では人吉球磨地域と菊池川流域が日本の伝統・文化を語るストーリーとして認定されました。

日本遺産為文化廳創設の認證制度，在熊本縣內有人吉球磨地區和菊池川流域因展現出日本的傳統和文化故事而獲指定。



青井阿蘇神社與宮日祭



MAP/P25 10

城山観音堂の十一面観音菩薩像

撮影
スラップスティック・フォト
演田 喜幸

相良700年の歴史 流傳在山間地帶的故事

相良家作為領主，統治熊本縣南部山間地帶「人吉」，共達700年。

相良氏積極建造宏偉寺廟和神社，以為民眾的心靈慰藉；同時亦透過重視傳統文化、燒酎釀造和民眾娛樂，而獲得人民的信任。

再無其他地方這般匯集保存了保守與進取雙方面精神昇華而成的文化象徵。知名小說家司馬遼太郎曾形容此地是「日本最豐饒的世外桃源」。

城山観音堂
十一面観音菩薩像

相良700年の歴史 山間の地に息づく物語

熊本県南部の山間の地、人吉を700年にも渡って領主として統治した相良家。相良氏は民衆の心のよりどころとなる立派な寺社を積極的につくり、同時に古くからの文化、焼酎造りや庶民の娯楽も大切にすることで人々の信頼を得ました。保守と進取、双方の精神から昇華された文化の証が集中して現存している地域はほかにありません。有名な小説家、司馬遼太郎はこの地を「日本でもっとも豊かな隠れ里」と記しているほどです。



番所地区の梯田



菊池溪谷

追尋稻米耕作文化 菊池川流域2000年の記憶

菊池川自阿蘇の外輪山流入有明海。

在這條71公里長的河川流域裡，您可在各地看到長達2000年的稻耕歷史，以及在其中孕育而生的文化，親身體驗到日本稻作的縮影。

平坦土地上留有8世紀左右開發的水田，留存於山間地帶的「原井出（全長11公里的渠道）」現仍使用。此外，海邊還留有由加藤清正開始以來的排水開墾遺跡。

米作りの文化をたどる 菊池川流域2000年の記憶

阿蘇の外輪山を源に有明海へ注ぐ菊池川。延長71kmのこの河川の流域で2000年にも及ぶ米作りの歴史と、その中で生まれた文化を各地で見ることができ、日本の米作りの縮図を体感できます。平地には8世紀頃に整備された水田が残り、山間部に残る「原井出（全長11kmの用水路）」は今も現役で使用されています。また海辺には加藤清正によって始められて以来の干拓の遺構が残ります。